



今の教職員、子どもの困難を広げる、 大阪の教育政策の根源＝教育基本条例

なぜこれほど困難になった？

この10年で大阪の学校と教育、教職員の働き方は大きく様変わりしてきました。

次々、知事・市長が現場の実状を考えずに下ろしてくる方針に振り回され、教職員の長時間勤務は大きく増加、多忙化や教育困難の中で病休の教職員が増え続け、今では、教員志望者も減少、講師・代替教員さえ確保できずに「穴が開いた」まま現場の負担と犠牲で学校を維持する学校も広がっています。

組合の会議で、ベテランの先生が、「以前は、学校に来て子どもと学ぶのが楽しいと思っていた」「サークルの学習会で知った教材や実践をすぐでもクラスの子どもたちにやってあげたいと学校に行くこともよくあった」「校内暴力が大変な時期でも、学校はブラックではなかった」、こんな声が上がっていました。今の学校の実態とは大きく違った学校や教職員の働き方が語られていました。

教育基本条例で学校や教育の制度が激変

かつては、教育は政治から独立して行われ、学校や教職員の自主性が尊重される制度になっていました。しかし、大阪では、2012年に、当時の大阪維新の会の橋下徹・大阪市長が多くの反対を押し切って、維新の会が多数の議会で成立させました。

この教育基本条例が今の大阪の学校の、子ども教職員の困難を深刻にしている根源といえます。条例が実施された後、大阪では一連の制度が実施されてきました。

競争教育・人材育成ではなく、人間として大切にされる教育を

右上の新聞記事のように、教育基本条例で、大阪の教育制度の基本が格差を拡大してもエリートを育成を優先したり、日本が国際競争に勝ち抜くための人材育成に押し込まれてきました。その教育を現場の教職員が必死の思いで推進させられているのでしょうか？

ましてや、長時間多忙化の業務を強いられ、個人としての当たり前前の生活もままならない中で、何のためにこんな働き方をしなければならないのかと思わざるを得ません。

人間らしい生活・働き方をしながら、子どもとの人間的なふれあいの中で、一人一人が成長できる喜びを感じながら教育の仕事をしたい、教職員の誰もが持っているのではないのでしょうか？

本来の教育のあり方を実現するために、保護者や市民とも手をつなぎ、現場の教職員が声を上げていくことが、何より必要になっています。

教育基本条例以後の教育改悪

- 処分を前面にした学校、教員への指示・命令の強化、
- 知事・市長による教育への権限強化、
- 授業アンケート実施し教員評価に反映、
- 私学無償化とセットで公立高校の統廃合
- チャレンジテスト、すすくテストでテスト漬けの教育に。
- 全国学力テストの成績公表で「学力向上」強化、
- 大阪市小中学校を保護者、住民無視して条例で統廃合。

「格差を生んでも、エリートを育成」

（競争・自由化で教育を自己責任に）

試行錯誤を重ねると言うが、失敗したら、巻き込まれた子どもはどうなるのか？

だからこそ自由に学校を選べる環境を整える。学区を撤廃し、学校選択制を導入し、学力テストの結果も学校別に公表する。そうすれば親も子が情報を元に学校を選べる。自分で選ぶのだから結果責任も自分でとる。

（国際競争を勝ち抜くための教育を）

エリート教育しか視野にないのか？

人格形成だけで人は生きてゆけない。・・・日本のような資源のない国は人材活用しかないので「国内で仲良く」という育て方で競争力を失った。・・・

人類の歴史を見れば、ずば抜けた人たちが新技術や思想を生んできた。これがないと国際競争を勝ち抜けない。

（格差を生んでも、秀でたものを育てる）

（維新の手本とする）英国の改革は格差も拡大したと言われている。

私は格差を生んでよいと思っている。・・・まずは格差を受け入れてでも、秀でたものを育てる必要がある。

「大阪府教育基本条例案・立案者に聞く」 維新の会・坂井良和氏インタビューより
2011.10.19. 朝日新聞 () 内加筆

チャレンジテスト、すすくテスト 公立高校統廃合計画の中止・撤回を

枚方市教育委員会は来年度の小学校すすくテストへの参加を決定しました。中学校1年からの内申点を左右する理不尽なチャレンジテストとともに、大阪の小中学生はテスト漬け、詰め込みの教育をますます強いられます。

一方で、大阪府では、3年連続定員割れの学校を統廃合対象校とする条例づくり、統廃合をすすめてきました。すでに6校が募集停止、廃校となり、さらに、2023年に3校の府立高校を。府立に来年春から移管される、大阪市立高校も、来年春に3校の統廃合、さらに3校の統廃合を検討しています。「私学無償化」で人気を集める一方で、普通の子どもたちが通う、地元で根ざした地域の学校が統廃合され、一部の人気校にばかり多額の予算がつけ込まれる。教育基本条例の本質が露骨に出ています。

大阪で進められている公立高校統廃合

競争を拡大し、子どもを追い込むテスト、高校統廃合を中止、撤回するために、大教組、枚方教組が呼び掛けている署名をひろげて、テスト付け・競争主義の教育を転換していきましょう。

府立高校	池田北・咲洲・西淀川・大正・柏原東・長野北 高校 6校	2014年～募集停止、廃校に	
	能勢高校	分校に格下げ	
市立高校	島本、茨田、泉鳥取高校 3校	2023年募集停止、近隣校に統合	
	扇町総合、南、西 高校 3校	2022年4月から桜和高校(新校)に統合	2022年4月府立に移管、3年連続定員割れ統廃合対象校に
市立高校	泉尾工業・東淀工業・生野工業高校 3校	1校に統合、時期等は今後検討	

「教員免許更新制」中教審、審議まとめ案パブコメ 現場の意見を集中しよう 10/30 まで

廃止と思ったら、もっと悪い制度が...

すでにお知らせいたように、マスコミなどで、「文科省が教員免許更新制廃止方針」と、報じる一方で、じつはその後に、もっと恐ろしい研修制度が構想されています。

研修目標、内容を国が決めて、教育委員会に研修計画を作成させる。教員の研修履歴を国のデータベースで管理、必要な研修受けていなければ、職務命令、従わなければ、処分留守する。

学校の実状や子どもの実態に役立つ、本当に教職員が求める研修ではなく、国の言う通りの内容を強制するものです。

研修は、自主的、自律的なもので、ゆとりの中で、教職員が進んで学びたい、そういうものであるべきです。

現場から声をあげよう パブコメの集中を

現在、文科省は、教員免許更新制について、学者、学校関係者による中央教育審議会に、に検討を諮問、その審議求め案が出ている段階です。

審議会の中でも、研修の管理強化、命令や処分による対応に疑問や異論も出されています。

審議会のまとめ案について、パブリックコメントが実施されており、これを受けて文部科学省に審議まとめが渡されることとなります。

パブコメは10月30日まで、右のQRコードから意見を書き込めます。

現場の意見を集中して、本来の研修のあり方を実現できるように声をあげていきましょう。



パブコメ QR コード

審議まとめ（「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて）の案に関する意見募集の実施について

教育のつどい大阪2021分科会

11月23日(火・休) 午前の部9:30~、午後の部13:30~
エルおおさか本館(地下鉄・京阪天満橋下車徒歩5分)

教育のつどい大阪2021分科会が11月23日に行われます。教科別、問題別の分科会で、大阪の現場の実践を持ち寄って、学び合い、論議を深めます。上からの課題ばかりでなく、子どもの実態から出発した、本当に求められている実践を学び合えます。



参加ご希望の方は、右のQRコードから参加の登録をお願いします。

全教共済 教職員と家族をまもる

総合共済 月々600円、しかも退会時に掛け金すべて給付！

お祝い（結婚、出産、結婚記念日などに給付）、お見舞いなど（療養や死亡・火災・災害見舞いに給付）
全国で9万人が加入！

教職員賠償共済 月々110円、もしもの時に、一人にしません！

業務にかかわる損害賠償請求に組合、弁護士と協力してあなたを助けます

業務の事故は自己責任ではありません。業務中の事故などで賠償などを求められたときに、まずは対応の相談に乗ります。弁護士相談、応訴費用、賠償金を補償します。

くらしの賠償共済 月々140円、

日常生活の事故、過失への賠償責任からあなたと家族をまもります！

自転車事故、借りた物が壊れた、ペットが他人にかみついた、などの事故・過失で、示談代行もあり、国内の賠償は無制限の補償。しかも家族までカバーできます。法律・税務・社会保険相談や、医療の相談サービスまで自動でついています！！

講師の先生も入れます。

他にも、教職員の身分をまもる、自動車保険、バイク保険

年金共済、医療共済、傷害共済、火災共済などもあります。

詳しくは大教済のホームページをご覧ください。⇒

毎年たくさんのお店の先生が加入しています。

今年も、若い先生たちが、リーフレットをみて、
直接たくさんの方が申し込まれています。



忘れずに！ 給付、お見舞い、お祝い金申請

総合共済のお見舞い、お祝い金や災害などの給付の申請をお忘れのないように。

結婚＝1万円、出産5千円、結婚記念日（15年、25年、35年のいずれか1回）

独身の方（加入10年上で40才以上の方）、

死亡見舞い金（本人10万円、配偶者3万円、子ども2万円、親1万円）

病気見舞い金（連続30日以上病気欠勤1万円）、火災見舞い金＝最高10万円

自然災害見舞い金＝最高10万円 いずれも申請期限があります、詳しくは大教済まで

